

地銀協レポート

vol. 16

2025.3.12

地方銀行とデザイン

金融経済教育



地域の顔を創る！ 地方銀行が挑むデザインの新境地	1
地域の未来を担う金融教育～みんなで「お金との付き合い方」を考えよう～	4
協会ニュース	9
－ 「先輩行員の声」を読んで地元で働くことについて考えてみませんか？	
－ 当協会の仮移転のおしらせ	
－ そのメール、本当に銀行からのメールですか…？	
統計グラフ	11
地域の雇用や地域産業を守るため取引先の事業承継をサポートしています	



Cover photo — No.007

地方銀行会館

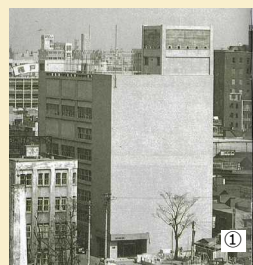
東京都千代田区内神田 3-1-2

1961年5月に落成した地方銀行会館。全国の地方銀行とともに、戦後の激動の経済・金融史を駆け抜けてきました。貿易・為替の自由化、国際通貨危機、石油危機を契機とした深刻な景気後退、金融の自由化・国際化の急激な進展、バブル景気と崩壊、「失われた30年」、マイナス金利政策の導入と解除…こうした数々の困難を乗り越えるため、ここ地方銀行会館は、地銀界共通の経営課題を共有・議論し、時に外部に意見を発信していく舞台となりました。

地下1階、地上6階建てのビルには、会議や研修が行える大小様々な会議室が設けられ、地方銀行同士をつなぐ場になっています。ここで、金融史に残る「全国地方銀行データ通信システム」稼働に向けた画期的な構想が生まれました。これは、全国規模で銀行同士をリアルタイムに接続した世界初のネットワークで、日本の決済システムの礎です。

そんな会館も、竣工から既に60年余り。老朽化が進んだことに加え、昨今の働き方の多様化に応えきれなくなったことから、ついに建て替えることになりました。時代の変化に柔軟に対応できるような、そして、地方銀行同士の絆がさらに深められるような場として、地方銀行会館は生まれ変わって帰ってきます。新会館で、これまでも増して、地域経済の発展に貢献できるよう進化する新しい地銀協にもご期待ください。

新会館の完成は2028年夏頃の見込み。それまでは、さようなら！地方銀行会館！



①落成当時の地方銀行会館。②かつて「オリンピック協賛割増金付定期預金の抽選会」の会場となったことも。③協会職員の執務スペース。④6階大会議室。担当者から頭取に至るまで、全国の地方銀行から一斉に集まる様々な会合で使われました。